



| | | | | | |
|---------|--------------------------|----|-------|----|---|
| 説教 | 狭い戸口からはいるように努めなさい | …… | 大倉 薫 | …… | 1 |
| 教会の課題 | 東京中会らしい中会形成を目指して | …… | 富永 憲司 | …… | 2 |
| | —東京中会の課題— | | | | |
| 旧約聖書に聴く | 現代に何を語るか ダニエル書 (11) | …… | 古賀 清敬 | …… | 3 |
| ■ | 天皇の代替りについて考える(3) | | | | |
| | アマテラスと天皇制 | …… | 古賀 清敬 | …… | 4 |
| 目次 | 教会、この地とともに② 上田教会 | | | | |
| | 信州上田にあるキリスト教会への神の導き | …… | 松沢 秀二 | …… | 5 |
| ■ | 三浦綾子の生涯と作品について (10) | | | | |
| | 愛の証しの文学 | | | | |
| | 『ちいろば先生物語』～聞き流すことがでけへんのが | …… | 森下 辰衛 | …… | 6 |
| | 讃美歌に生かされて | | | | |
| | よろこびの讃美を歌う | …… | 池脇 豊子 | …… | 7 |
| | こいのにあ | | | | |
| | 相手に伝わる教会のことばとは | …… | 照井 勝 | …… | 7 |
| | 次世代を担う長老・執事・委員を育てるために | | | | |
| | 教会ニュース | …… | 柴田 理 | …… | 8 |
| | | | | | 8 |



狭い戸口からはいるように努めなさい

さてイエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた。すると、ある人がイエスに、「主よ、救われる人は少ないのですか」と尋ねた。そこでイエスは人々にむかって言われた、「狭い戸口からはいるように努めなさい。事実、はいろいろとしても、はいれない人が多いのだから。

(ルカによる福音書13章22-24節 口語訳)

おお くら かのる
大 倉 薫

狭い戸口からはいると言いますと、どのような戸口を想像されるでしょうか。筆者はキリシタン大名と関わりのある茶道の茶室のにじり口を思い浮かべます。幅約59センチ、高さ約68センチ。ひざをつけてかがんで出入りします。どこに入るのかと申しますと29節にありますように神の国にです。

神の国に入るための入口とは具体的には主イエス・キリスト御自身に対する信仰のことです。神の国への入口としては創世記28章にヤコブが荒野で石を枕にして眠っていた時に夢を見、頂が天に達するはしご(階段)を見て、荒野にも天に至る門があることを知らされます。またヨハネ福音書10章7節以下では、主イエスが「わたしは羊の門である。…わたしをとおってはいる者は救われ」る、と語られました。戸口というのは門よりもさらに狭い出入り口です。

狭い戸口から入るように努めなさい、という主イエスのみ言葉は26節、27節のみ言葉に関連しています。「わたしたちはあなたとご一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました」と言い出しても、家の主人は「あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない…と言うだろう」。22節に「イエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた」とあります。その時主イエスは、多くの人々とはしばしば会食をしたことがあったのでしょうか。例えばルカ福音書14章1節以下などのように。また大通りで神の国について教えられたのでしょうか。その時、「わたしもそこに居たではありませんか」、と言う人がいても、「わたしは…あなたがたを…知らない」と、主イエスは言われるというのです。

門は王や軍隊が出入りする時に開閉されます。しかし戸口と言うのは門よりもさらに小さく、一般的には庶民が出入りする通用口のことでしょう。これは大きな門のわきに設けられていたり、大きな門の門扉自体にくぐり戸として作られていたりします。出入り自由で、その家なり、城のあるじと平和な関係であればいつでも出入りできます。

狭い戸口というのは、日々の祈り、しかも個人的な祈り、たとえばマタイ福音書の6章6節にあるような密室での祈りのことを語っておられるのではないのでしょうか。

マザー・テレサは「働きながらも祈ることはできます。神にちょっと心に向けるだけで良いのです」と語っています。わたしたちは、聖霊においていつも共に居て下さる、生けるキリストに心を開かないでいて、物事がうまく行かなくなつてようやく祈ることに心が向く、ということがあるのではないのでしょうか。

十字架の死からよみがえった主イエスはこう仰せられました。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ福音書28章20節)。

パウロはピリピ人への手紙4章5節後半-7節で次のように語っています。「主は近い。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう」。(聖園教会牧師)